



訪問看護だより

Vol.8 (2022年 新春号)



明けまして おめでとうございます。



今年のお正月は、新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いており、久しぶりにご家族と過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。この1年も皆様にとって、素敵な一年になりますようにお祈りいたします。



療養生活を快適に・・・

「胃ろう」をご存知でしょうか。

口から栄養をとるのが難しくなった人の腹部に小さな穴を開け、胃に直接栄養を入れる、その穴を「胃ろう」と言います。

鼻から胃へチューブを通して栄養を入れる「経鼻経管栄養」に比べて、チューブが鼻や喉を通らないため不快感や違和感が少なく、口から食事をとる練習（嚥下訓練）をしやすいといったメリットがあります。

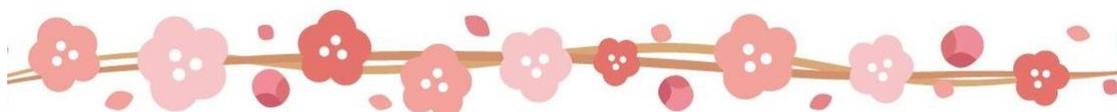
胃に直接チューブを入れるので、栄養を入れるときに周囲に汚れが付いたり、浸出液が出たり、チューブの刺激で皮膚のトラブルを起こすことがあります。そのために、胃ろうの周囲を清潔に保つことが大切になります。食事の後に口の周りについた汚れを取るのと一緒です。

今回ご紹介するのは、胃ろう用のクッションです。去年、飲み込む力が弱くなり胃ろうを造ったAさんのために、娘さんが手作りされました。写真では伝わりにくいのですが、ふわふわで肌触りも良く、皮膚が弱いAさんのことを思って作られた娘さんの優しさを感じます。

毎日胃ろうの周囲を洗ってクッションを交換し、皮膚トラブルなく過ごされています。

栄養をしっかりとって、元気な笑顔をいっぱい見せてくださいね。

私たちも応援しています！





作品介绍

今回は、2人の利用者様、BさんとCさんの絵をご紹介します。
このお2人の作品、何で描いたものか、わかりますか？

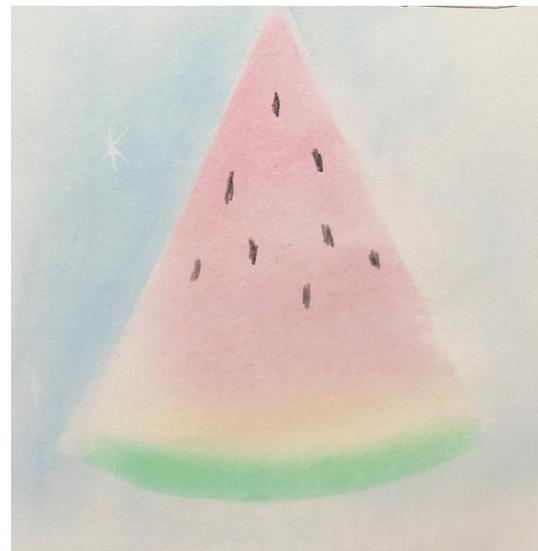
Bさんの作品



Bさんは、肩の痛みが絶えずあるのですが、リハビリにと勧められた塗り絵が、リハビリの域を超える作品になっています。
デイサービスの壁にはいつもBさんの作品が飾られているそうです。油絵具で塗ったように見えませんか？

Cさんの作品

Cさんは脳梗塞後も、絵だけでなくいろいろな作品を作っていました。
このスイカの絵、実と皮の間の微妙な色の変化が水彩絵具で塗ったように見えませんか？



実はこの作品は2つとも、色鉛筆で描かれたものです。
同じ色鉛筆でこんなに感じの違う色合いが出せるんだなあと、びっくりしました。

Bさんは、あの深い色を出すのに、同じ箇所を3回4回と異なる色で重ね塗りをするそうです。
波のしぶきは修正液で表現されています。
自分の好きなことが続けられるって素敵だな、と思います。

皆さんの作品、思い出の品等、投稿をお待ちしています！

